様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年６月６日現在

機関番号：３３９０８
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2010～2012
課題番号：２２６５２０８０
研究課題名（和文）　在日イスラーム少数派移民のグローバルネットワークに関する基礎的研究
研究課題名（英文）　Basic research of global network by muslim minorities in Japan

研究代表者
渋谷　努（SHIBUYA TSUTOMU）
中京大学・国際教養学部・教授
研究者番号：30312523

研究成果の概要（和文）：
本研究では日本、イギリス、フランス、モロッコに住むイスラームマイノリティの生活とグローバルなネットワークについて現地調査によりデータを収集した。今回の研究で得られたデータは宗教的少数派のグローバルなネットワークを理解するための基礎的なものであるとともに、彼らの宗教的マイノリティであるため生じる生活戦略を一般的な理論を考察するためにも重要な寄与をすることが出来ると考える。

研究成果の概要（英文）：
In this research, I collected data about the ways of life by muslim minority living in japan, England, France and Morocco and I researched their global network by field work. I think that the collected data is fundamental material to understand global network by religious minority and also to invent the general theory of living strategies by religious minority.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	800,000	0	800,000
２０１１年度	700,000	210,000	910,000
２０１２年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総　計	2,400,000	480,000	2,880,000

研究分野：文化人類学・民俗学
科研費の分科・細目：文化人類学、文化人類学・民俗学
キーワード：イスラーム、グローバリゼーション、マイノリティ

１．研究開始当初の背景
本研究の主な調査対象であるイスラームマイノリティの一つであるイスマーイーリー派は、パキスタン北部などでの地域開発を行っている。しかしこの開発を支援していている者の中には、イスマーイーリー派が集住しているパキスタン北部などだけではなく、イギリスのロンドンや日本に住むイスマーイーリー派の移民も含まれている。本研究では、これまであまり注目されることがなかったグローバルなイスマーイーリー派のネットワークを明らかにする研究プロジェクトの萌芽的なものである。

２．研究の目的
本研究の目的は、イスマーイーリー派のグローバルなネットワークに関する研究を行うための基礎的なデータを現地調査及び文

献調査を通して収集し、今後の研究を行うための基盤を形成することにある。そのために本研究では日本を中心としたイスマーイーリー派のネットワークに関する基礎的情報を収集するとともに、宗教生活の実態を明らかにする。具体的には、日本に住むイスマーイーリー派の移民に対して調査を行うことで、日本での居住者数、出身国などの基本的なデータを収集する。さらに、日本に移住した後に職業や居住地を探す際に同一宗派でのネットワークがどのように機能しているのか、そして宗教マイノリティに基づくネットワークが出身国が同じであったり、ムスリムであることから形成されるネットワークとはどのように異なっているのかを明らかにする。

個人の宗教実践及び横浜で行われている集団礼拝に参与観察するとともに、日々の宗教実践の状況を把握する。さらに日本の状況と比較するためにヨーロッパのフランスとイギリスでの調査を行い、さらに、ムスリムが多数派を占めている中での宗教的マイノリティの生活実態を知るためにモロッコで調査を行い、それぞれの地域で得たデータを比較することで、移住現象や宗教的マイノリティであることが宗教実践に与える影響を比較考察する。

３．研究の方法

上記の目標を達成するために、日本、イギリスのロンドン、フランスのパリ、モロッコのカサブランカで以下の項目に関する聞き取り調査を行い、また各種団体を訪れて、文献資料を収集した。

上記調査地域に住むイスマーイーリー派の人数、出身地、居住地、性別、職種、居住年数といった基本的な情報を収集した。

さらに、在日および在英イスマーイーリー派の集団化の経緯について組織化の観点からインタビューを行った。さらに行事ごとの運営費などの会費の使用法について聞き取りを行った。その際には国際的なイスマーイーリー派の団体との関係について特に留意して聞き取りを行った。

宗教実践の面に関しては、日々の礼拝だけではなく断食や供儀祭などの宗教実践を日本イギリス、フランス、モロッコでどのように行っているのかを参与観察及びインタビューを通してデータを収集した。また、横浜での集会に積極的に参加し、そこでラポールを形成するとともに、宗教実践の出身国別の異同の有無を明らかにした。さらに、他地域出身者との交流によって宗教実践に変化があったかどうかを聞き取り調査を行った。

４．研究成果

（１）日本における調査成果

初年度では、日本国内に住むイスマーイーリー派の居住分布を明らかにするために、調査対象者に対する聞き取り調査を行った。出身国別でいえば、パキスタン出身者 27 名、インド出身者 12 名（そのうち、フランスに移住したのち来日した者が 2 名）、ザンジバル出身者 8 名が調査対象者となった。このような調査から、彼らが日本で従事している仕事は工場勤務やレストランで働くものが多かったが、自分で商売を経営する者もおり、中古車ディーラーをしている者もいた。

そのうち、3 名の調査対象者から日本に渡るまでの過程について、さらに彼らの親族や友人の複数諸国にわたって広がっているネットワークとそこでの情報交換の実態について聞き取り調査を行った。そして、彼らのこれまでの生活の中での日本社会との関わり方に関して、ライフヒストリーを収集することでデータを獲得した。さらに日本での生活での他のイスラーム教徒との関係のあり方に関して参与観察することができた。

２年目では、前年と同様に日本に住むイスマーイーリー派の基本的なデータを収集した。さらに彼らの友人のネットワークについて聞き取りの調査を行った。イスマーイーリー派以外の同国出身者やムスリムとの関係や、その他の外国出身者、そして日本人との関係について、就職先、居住先の斡旋や金銭、法律上の問題に直面したときの対処の仕方、さらには日々の電話などでの情報交換の状態について聞き取り調査を行った。

就職先や移住先について、来日当初は出身国での地縁関係や親族ネットワークを頼ることが多かった。

しかし、来日後年数がたつと、日本で知り合った他地域、他国出身者とネットワークが形成され、その新しいつながりに就職先や居住先を探す際に頼るようになった。

ネットワークの形成は出身国によって差異を見出すことができた。パキスタン出身者は、同国でマジョリティであるイスラームの一派スンナ派の者と日本でネットワークを作ることはなく、彼らが日常的に親密な関係を作っているのは他国出身者のイスマーイーリー派か日本人であった。

それに対し、インド出身者は同国出身者と日常的な関係を築いていたが、その中には含まれるのは非ムスリムのインド出身のみであり、スンナ派の者とネットワークを作ることはなかった。

出身国でスンナ派がマジョリティであるパキスタンは、国家にも続くつながりが、日本という異国で生活するうえでのネットワーク形成に重要な役割を果たしておらず、インド出身者とは異なっていることが明らかとなった。

出身国の中での自分たちの宗教の社会的

位置が移住先でのネットワーク形成に影響していることが分かった。

そこから、彼らの日本での生活を維持するためには、親族や同地域出身者といった出身国で形成していたネットワークが、居住地の確保、職業の斡旋など社会･経済的に重要な役割を果たしていることがわかった。それに対して、インドやパキスタンといった出身国に基づく関係はほとんど機能していなかった。また、日本の中での他派のイスラーム教徒との関係もそれほど活性化していなかった。それに対してホスト社会である日本人との社会的･経済的支援、さらに日々の関係が重要であることが明らかとなった。

３年目では、日本に住むイスラームの少数派であるイスマーイーリー派の間でのネットワークの実態を、インタビューを通して明らかにした。具体的に述べれば、出身地に住む者との関係を送金や贈り物といったモノの移動を通して、その関係がどのように維持されているのかに関するデータを得た。さらに、日本に住むイスマーイーリー派のモノの移動は、出身地に向けてだけではなく、教団組織に向けても行っていることを、聞き取り調査から明らかにし、この教団がグローバルに再分配している実態について、文献調査を通して析出した。

（２）海外における調査成果

初年度では、イギリスおよびフランスでのイスマーイーリー派団体の形成過程に関する聞き取り調査を行った。また、上記二カ国を含むヨーロッパ内でのイスマーイーリー派の人々のネットワークの一部を把握できた。さらに、バングラデシュなどで行っている開発事業や教育事業の展開についての資料を収集した。また、一部公開されるようになったイスマーイーリー派の教義に関する資料を取得した。

２年目ではパリ及びその近郊に住むイスマーイーリー派の人数、出身地、居住地、性別、職種、在仏年数といった基本的な情報に関して、インタビューを用いて聞き取り調査を行った。フランスでの調査からも、日本の場合と同様に親族や同地域出身者といった出身国で形成していたネットワークが重要であることがわかった。さらに、平成 22 年度に行ったイギリスでの調査結果と照らし合わせることで、ヨーロッパの中での仕事の紹介などが国境を越えて行われていることが確認でき、マイノリティの生存戦略としてのグローバルネットワークの一部を確認することができた。

さらに、３年目ではグローバルなイスラームネットワークの実態を明らかにするために、フランスとモロッコに住む者へのインタビューを行った。フランスは北アフリカ出身移民が多く住んでおり、イスラームを国教としているモロッコにおいても同じムスリムの間でもイスマーイーリー派は少数派であり、彼らが他のムスリムとは一線を画しながら生活していることを明らかにした。具体的に言えば、イスラームの集団礼拝の場であり、情報交換をするモスクには行くことはなく、そのためにイスラーム教徒のネットワークに入ることは少なかった。彼らにとっては、イスラームネットワークよりも、他宗教の同国出身者とのネットワークの方が生活をするうえで重要な役割を果たしていることが明らかとなった。

フランスやモロッコでの調査から、労働面でのグローバルなネットワークが形成されていることが分かった。日本で中古車ディーラーをしている者は、自分の親族ネットワークを用いて、東南アジア諸国との販売を可能としているが、それと同時にイスマーイーリー派に基づくネットワークによって知り合ったものを仲介にすることで、カナダやヨーロッパ諸国での商売が可能となっていた。

さらに、北米やヨーロッパの就職先の情報も電子メールやフェイスブックといった IT 技術を用いることによって、日常的に情報のやり取りを行っていた。経済的な面からいっても、宗教的マイノリティであることから生じる、集団内の凝集性を見出すことができ、それが労働や商売といった経済の側面でも彼らの生活戦略を維持するのに寄与していることが分かった。

（評価）

このような調査結果は、本研究の目的であるイスラーム少数派のグローバルなネットワークを研究する上での基礎的な情報を得られたと考えられる。イギリスおよびフランス、日本で得られたデータは、イスマーイーリー派のグローバルなネットワークを理解するための基礎的なものである。また特に日本で行った調査から得られたデータは、彼らの生活世界とともに日本の住むイスラーム少数派の他のイスラーム教徒との関係を理解する上で重要なデータとなりうる。

また、今回の研究で得られたデータは宗教的少数派の生活戦略を一般的な理論を考察するためにも重要な寄与をすることが出来ると考える。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

６．研究組織

(1)研究代表者

渋谷　努（SHIBUYA TSUTOMU）
中京大学・国際教養学部・教授

研究者番号：30312523

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：